

高雄だより臨時号

平成 27 年 9 月 25 日
京都市立高雄小学校
校長 出口 信行
前期学校評価のまとめ

公開URL http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/data/111300/
モバイルURL http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index-i.php?id=111300

学校教育目標

「心豊かに自ら学び 無限の可能性を拓く たくましい子ども」

はじめに

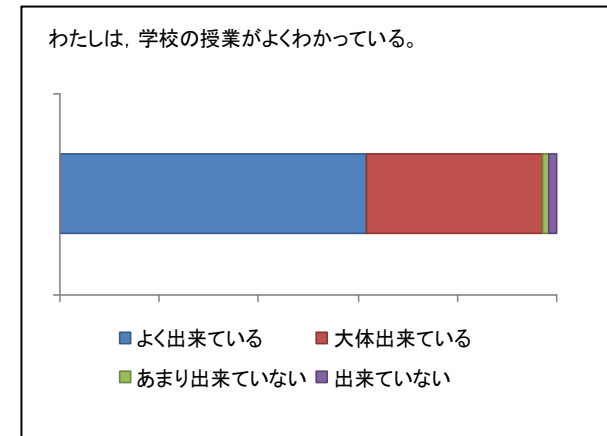
先日は、学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。子どもたちへのアンケート・保護者の皆様へのアンケート・教職員へのアンケートをもとに、私たちの取組やこれからの子育てについて、子どもたちに身に付けたい「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の視点から考えてみました。

確かな学力

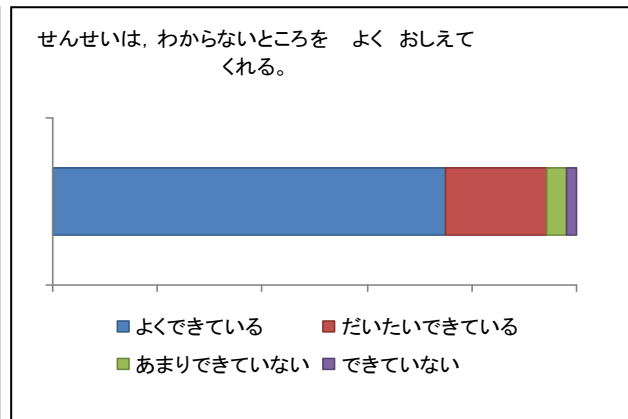
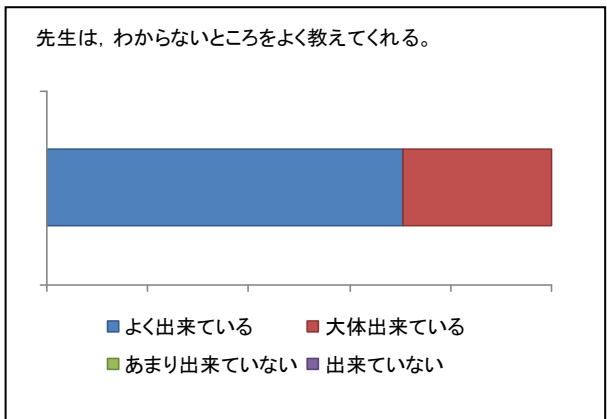
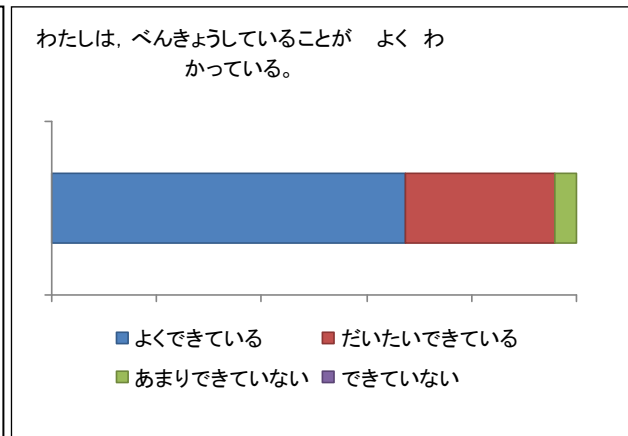
予習し進んで学習する子

授業の様子について

高学年



低学年

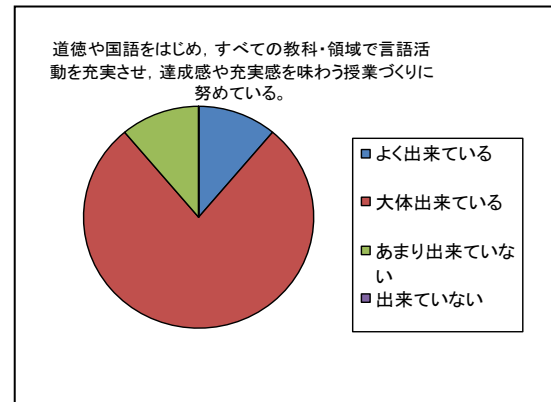
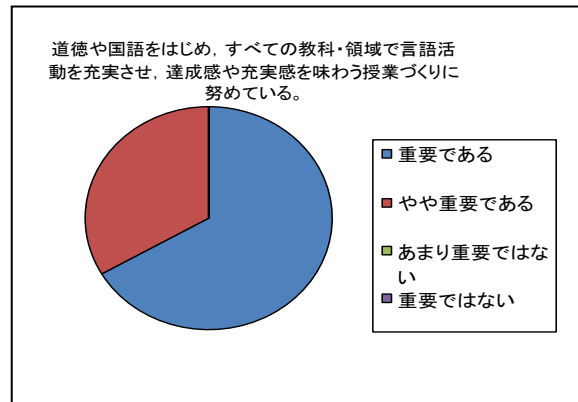


左のグラフからは、授業中の子どもたちの様子の一端がうかがい知ることができます。高学年のおよそ 97% の子どもたちが「授業がわかる」と答え、「先生はわからないところをよく教えてくれる」と回答している子は 100% に上っています。(低学年「授業がわかる」96% 「先生はわからないところをよく教えてくれる」95%) 子どもたちが意欲的に学習している様子うかがえ、うれしい結果となりました。しかしながら、授業の中で「先生や友だちに自分の考えをはっきり話している」ことについては、低学年 17.6% 高学年 11.4% の子どもたちが「あまりできていない」「できていない」と回答しています。「授業改善」の大きな柱の一つに「言語活動の充実」をかねてきました。子ども自らが自分の考えを表現し、受け止めあったり話し合ったりする学習を目指していますが、子どもたちが自信を持って「言語活動」に取り組むには、さらなる私たちの努力が必要であると考えられます。

＜教職員アンケート

重要度

実現度



授業の改善の重点は、なにより、子ども達が学習を通して達成感や充実感を味わい、向上心を持つことです。そのために、これまで国語科において、グループ活動の活性化、話し合いのルールづくり、ノートづくり、並行読書を取り入れた学習の展開などに取り組んできました。そのことを通して、子どもたちに、自分の考えを進んで友だちに伝えたり相手によくわかるように表現したりする力が身につき始めたように思います。今後も、子どもたちがもっと前向きに学習に向かい、積極的に考えを発言できるようにするにはどうすればよいかを考え、さらなる授業改善に取り組みたいと思います。そのことについて、すべての教職員が「重要である」「やや重要である」と回答していますが、実現度のほうを見ると「よく出来ている」と回答しにくい様子もうかがえます。子ども自らが、自分の可能性を信じ、言語活動を通して学び取る学習ができるようさらに研究を深めたいと思います。そして、子どもが充実感や達成感を味わえる学習を展開していきたいと思います。

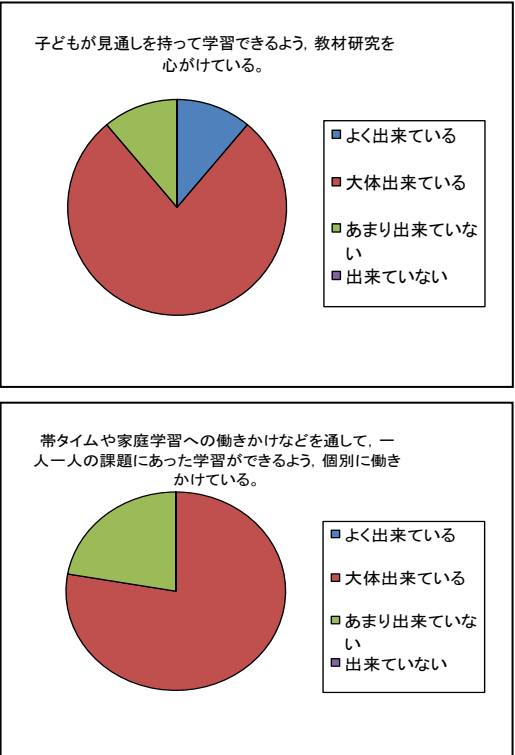
学習習慣について

下の表からは、家庭での学習のようすや学習内容をうかがい知ることができます。学校と家庭の学習の連携を取るために、昨年度より、家庭学習について、保護者あてのおたよりとは別に子ども用の学習予定表を配布するようにしたり、家庭でできる自主学習について指導したりしてきました。

＜低学年アンケート＞	じつげんど			
	よくできている	だいたいできている	あまりできていない	できていない
わたしは、しゅくだいを わすれずに している。	84.3%	9.8%	5.9%	0.0%
わたしは、しゅくだいの ほかに、じぶんの やりたい べんきょうを している。	63.3%	16.3%	6.1%	14.3%
わたしは、きまった じかんに、いえで べんきょうしている。	54.9%	13.7%	7.8%	23.5%
わたしは、あした べんきょうするところの、きょうかしょを よんでいる。	37.3%	5.9%	3.9%	52.9%
＜高学年アンケート＞	実現度			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
わたしは、宿題を忘れずにしている。	60.9%	26.1%	8.7%	4.3%
わたしは、宿題のほかに、やりたい学習や自分に必要な勉強に取り組んでいる。	39.7%	32.4%	20.6%	7.4%
わたしは、決まった時間に、家で勉強している。	34.3%	25.4%	25.4%	14.9%
わたしは、明日勉強するところの、予習をしている。	13.2%	27.9%	36.8%	22.1%

学年を問わず、学校で与えられた「宿題」についてはしっかりと取り組んでいる様子が見えてきます。宿題以外の自主学習については、昨年度後期に比べると「よくできている」「大体出来ている」と答えている子が全体として増加しています。子どもたちの回答から気になりますのは、予習する項目です。明日勉強するところを読んでおくことは、立派な予習ですが、他の項目に比べて低学年も高学年も半数以上の子ができていない様子が見えてきました。大人も同じですが、明日どんなことをするのかの見通しを持つことができれば、気持ちは意欲的で、積極的になります。このことを通して、わずか10分でも教科書をひらいて読む習慣を身に付けてほしいと願っています。

＜教職員アンケート＞



左のグラフからは、私たち教職員の家庭学習への働きかけを知ることができます。子どもたちの家庭学習が充実するのは、まず子ども自身が学習計画を知っていて「これからどのような学習をするのか」がしっかりわかっていることが大切になります。そうすることで、例えば六年生では、「この単元では鎌倉時代の武士の政治について学習するから、鎌倉幕府の仕組みを調べておこう」とか「人の体の仕組みを学習するから、筋肉の働きにつて調べてみよう」という意識が生まれ、意欲的で主体的な学習が期待できます。子どもたちが見通しを持って学習を進められるようにするには、それよりも先に、指導者が、見通しを持てる学習ができるよう教材研究を心がけねばなりません。左のグラフは、そのことについての教職員の意識を問うアンケートの結果を表したものです。また、一人一人の子どもたちへの個別指導についてのアンケート結果についても示しています。これらの質を高めていきたいと思います。

＜保護者アンケート＞

	重要度				実現度			
	重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
わが子は、家族に言われる前に、進んで宿題をしている。	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%	16.0%	54.5%	22.5%	7.0%
わが子は、家庭でよく読書をしている。	59.9%	38.0%	2.1%	0.0%	7.0%	15.0%	65.2%	12.8%
家庭で、わが子の学習の様子と一緒に見ている。	64.2%	33.7%	1.1%	1.1%	16.8%	47.0%	36.2%	0.0%

保護者の皆さんのアンケート結果からは、皆さんが「進んで宿題に取り組むこと」「家庭で読書すること」「保護者が子どもの学習のようすをしっかり見ること」について「重要である」「やや重要である」とお答えいただいていることが多いことがわかります。しかしながら、その実現がなかなか難しい様子もうかがえます。ご家庭それぞれのご事情があり、なかなか子どもの家庭学習に関われないという悩みもうかがい知ることができました。

「わが子は、家庭でよく読書している」という問いに対して「あまりできていない」65.2%「できていない」12.8%とご回答されていることに注目したいと思います。「宿題をさせるだけでもやっとならなくて、読書にまで手が回らない」というお声もいただいています。しかし、読書は心の栄養にもなります。子ども達の表現力を育てることもつながります。親子で一緒に読書するなど、それぞれの家庭でできることから取り組み、「本好きの子」を育てたいですね。

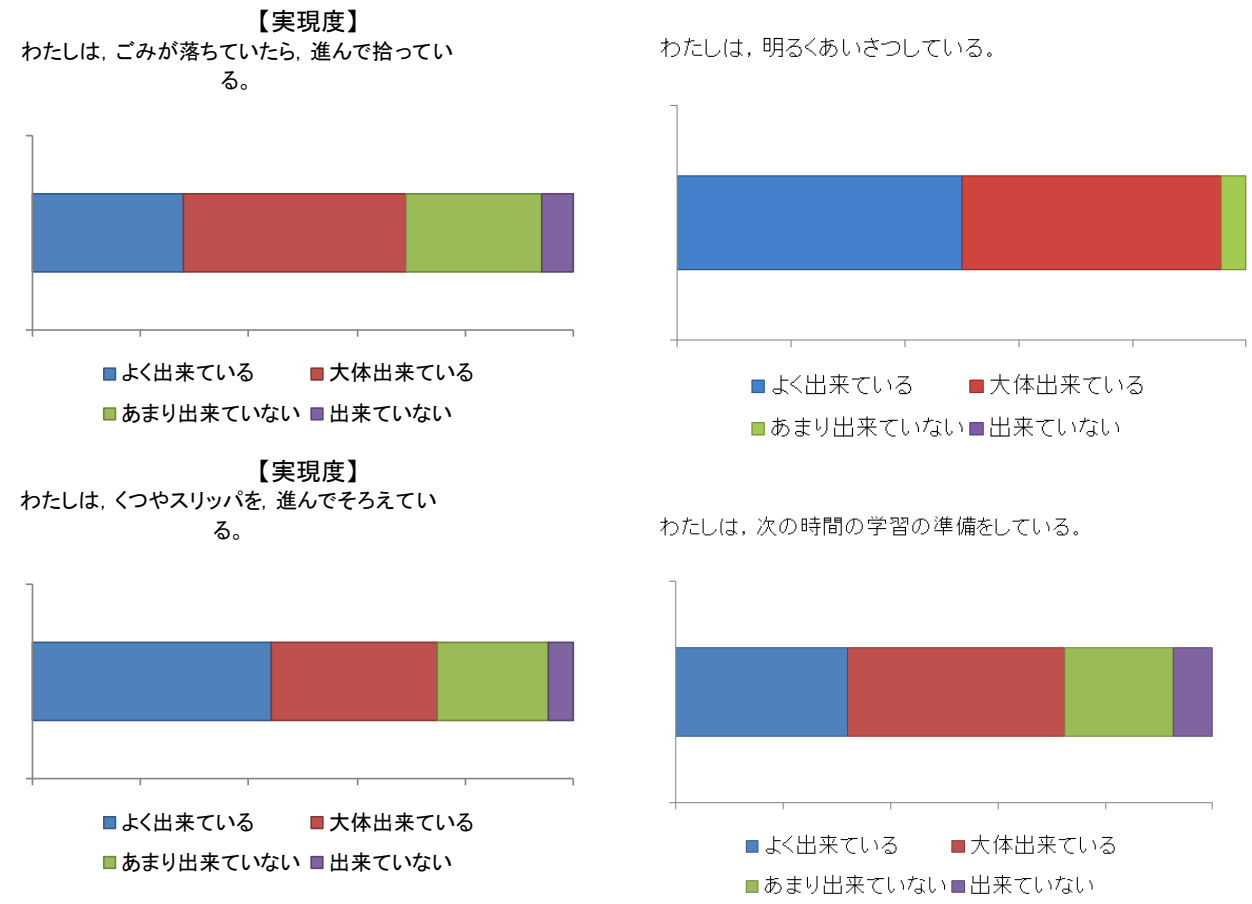
豊かな心

- くつをそろえる子
- 明るくあいさつする子
- 「はい」と返事する子

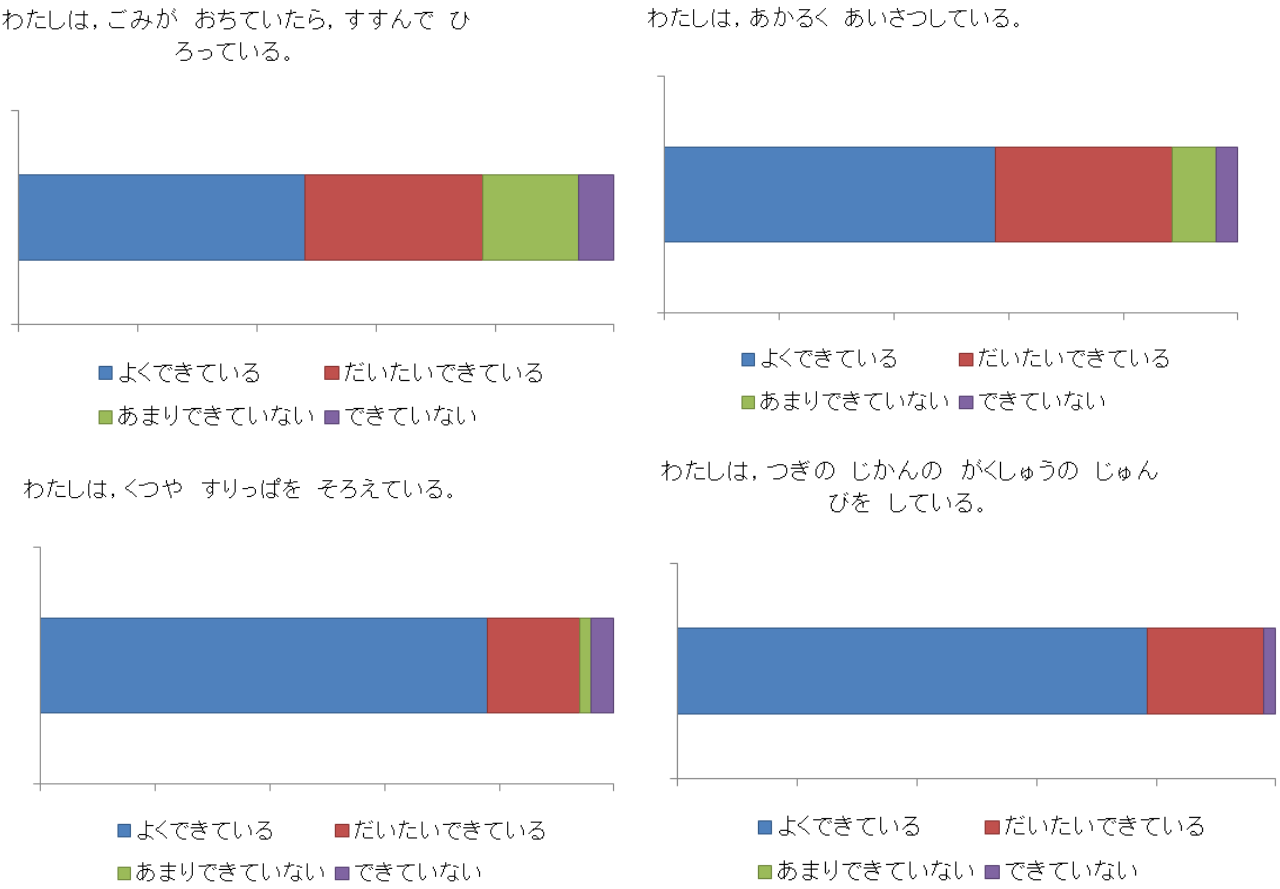
今年度、高雄小学校では、道徳教育に力を入れて取組を進めています。子どもたちは、それぞれに、もともと道徳性を持っています。道徳の時間には、その道徳性を引き出し、友だちと話しあったり考え合ったりすることを通して、より深めたり広げたりするようにしています。そして、生活の場面でより良い行動を自分から進んでとれるような実践力を育てるようにしています。特に、みんなが気持ちよく使えるようにするためにはどのようにしたらよいかを考えて行動できる「くつをそろえる子」、相手と気持ちよく接することでコミュニケーションが取れる「明るくあいさつする子」、他の人の考えに耳を傾け素直に受け止めることができる『「はい』と返事する子」、子どもたちの行動目標にも掲げ、学年の実態に応じて取組を進めています。

今回のアンケートからも、その取組の進捗状況を見ることができます。

＜高学年アンケート＞



＜低学年アンケート＞



低学年・高学年ともにすべての項目で、「よくできている」「だいたいできている」と回答する子が過半数を占めています。おおむね低学年は「できている」と回答することが多く、高学年になるにしたがって「できていない」「あまりできていない」と回答する子が増えてきます。その大きな要因には、成長するにしたがって、自我が芽生え、集団や社会の決まりとの間に摩擦が生じ始めていることが考えられます。しかしながら、子どもたちが判断を迫られた場面で道徳の学習を生かして実践する力を育てるという視点で見つめなおしたとき、私たちの指導をふりかえる必要があるように感じます。

私たちの指導は、時に「～してはいけません」で終わってしまうことがあります。それは状況によっては必要な場合もあります。しかし、子どもが自分の心で考え、判断し、行動するようにするためには、機会をとらえて子どもの道徳性に働きかけるような学習が必要になります。道徳の時間は、そのような学習を進めていくうえで最も大切な時間になります。そこで、年度当初に学習する内容についての年間計画をしっかりと立て、計画的に学習するようにしています。しかしながら、子どもの状況に応じて、学習する内容を入れ替えて実施することもあります。たとえばバスの乗り方のマナーがよくない場面を見かけたとき、道徳の時間に話し合ったことをもとにして、その子なりの道徳的な実践ができるようにしていきたいと願っています。

あいさつについての教職員と保護者のアンケート結果は次の通りです。

	重要度				実現度			
	重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
＜保護者＞								
家庭では、わが子の挨拶やことばづかいにきをつけている。	85.0%	13.9%	1.1%	0.0%	18.9%	50.3%	29.7%	1.1%
＜教職員＞								
子ども達は、進んであいさつしている。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	60.0%	30.0%	0.0%

前述の子どもたちの挨拶についてのアンケート結果と、保護者・教職員のアンケート結果には、大きな差が認められます。子どもたちは自分なりにあいさつしているつもりでも、私たち大人から見ると不十分と評価される場面があるのではないのでしょうか。

あいさつについて、私たちは子どもたちにどのように指導することが大切なのでしょうか。大きく元気な声であいさつする人もいれば、笑顔で相手の顔を見ながらあいさつする人もいます。だれでも、その日の気分によりあいさつの仕方が変わるというようなことはあります。「あいさつをしろ」というのは一見簡単なようですが、そこで私たちが求めているのは、形だけ整った声だけの挨拶ではなく、コミュニケーションの一つとしての心のこもった挨拶です。

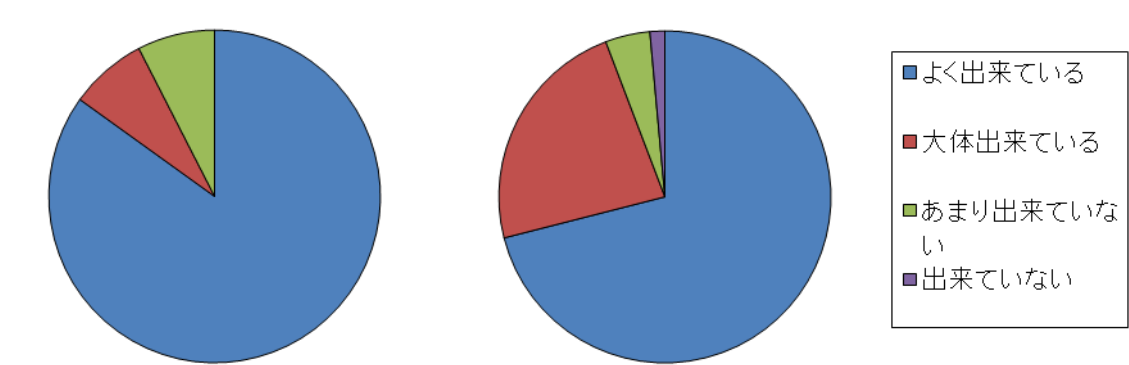
外国語活動を進めるにあたって、小学校では、イングリッシュシャワーという取組を進めています。まるでシャワーを浴びるように、自然と子どもたちが外国語に親しめるようにする取組なのですが、



本校の取組は胸を張って自慢できるような素敵な取組です。本校のイングリッシュシャワーは、「英語でしかできないコミュニケーション」を体験する取組です。6月は、「here you are」「thank you」「you are welcome」という言葉を教わり、それを実践してみようという試みを行いました。直訳すると「これをどうぞ」「ありがとう」「どういたしまして」となりますが、最後の「you are welcome」は、「ようこそいらっしゃいました」

「いらっしゃい」など状況に応じて意味合いが変わるようです。このようなあいさつのコミュニケーションは、英語ならではかもしれません。でも、そこに見られる相手を気遣う気持ちや、相手と心を通じ合わせようとする気持ちこそ、あいさつの本来の意味なのではないのでしょうか。もともと日本には、そのようなあいさつを交わす風習がありました。知り合いに出会ったときなどには、「お暑いですね」「ご機嫌いかがですか」など、あいさつからコミュニケーションが始まっていました。教室では、プリントなどを配るときに「どうぞ」と声をかけたり「ありがとう」と、受け応えしたりする学級も見られます。そんなことを通して、相手を大切にし、コミュニケーションの輪を広げていけるとよいと思っています。子どもたちの登下校のとき、子どもたちと出会ったとき、温かい言葉であいさつできる雰囲気を、大切にできたらいいですね。

わたしは、がっこうが、いつも たのしい。 わたしは、学校では、いつも楽しく過ごしている。

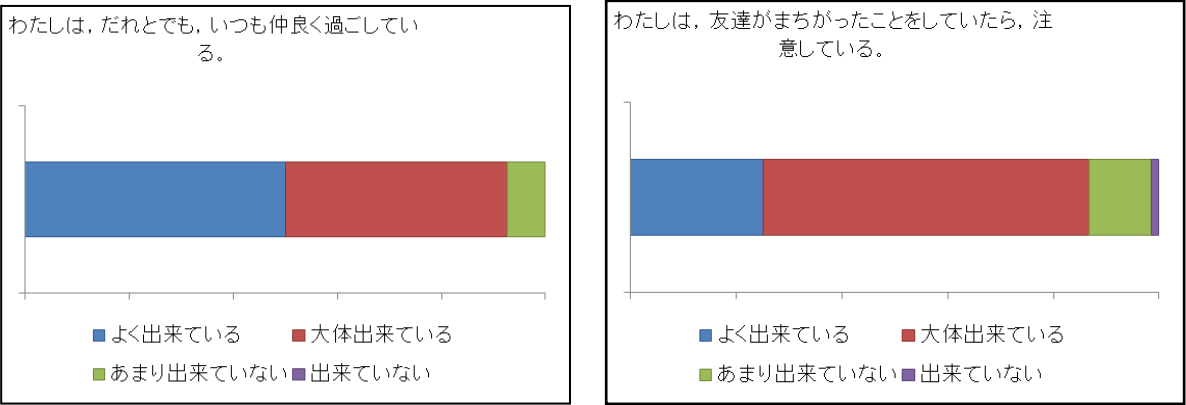


低学年

高学年

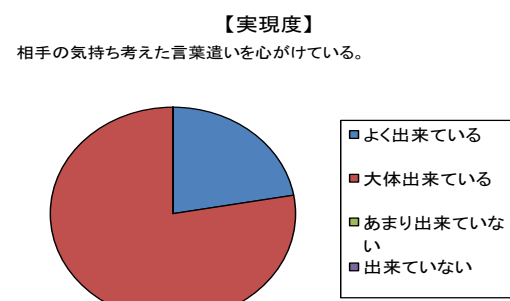
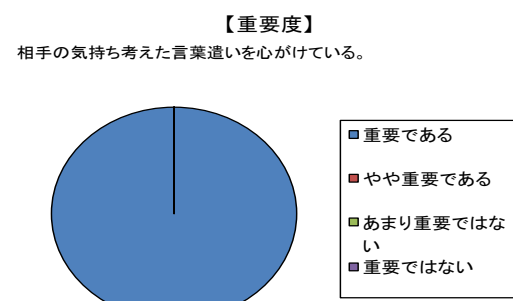
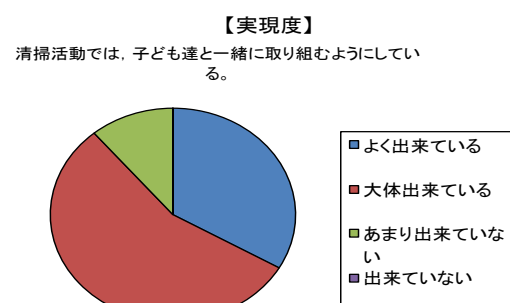
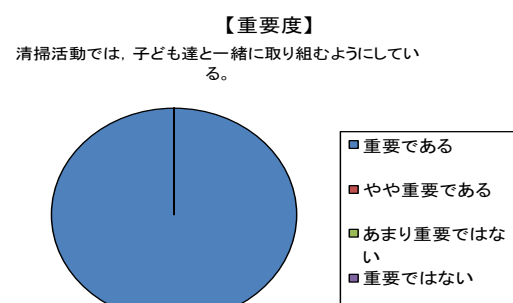
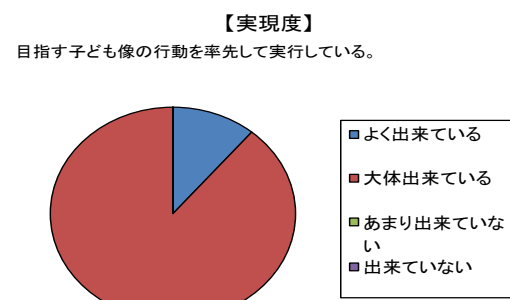
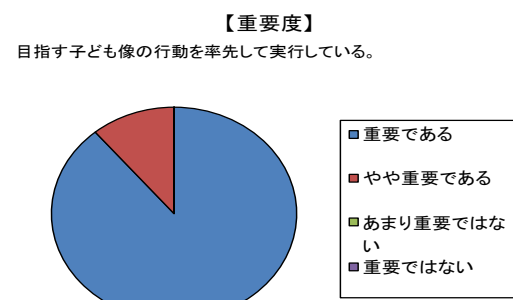
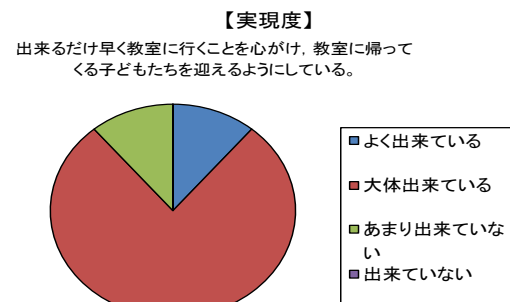
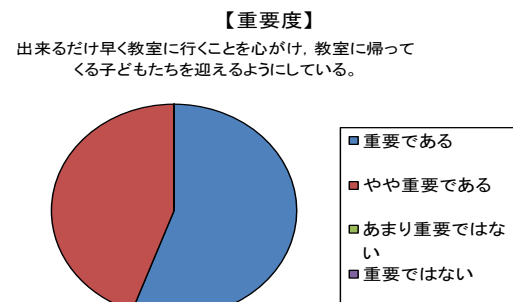
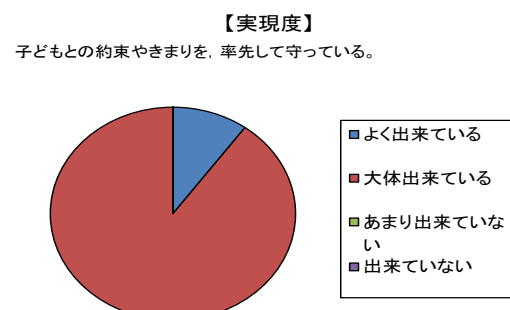
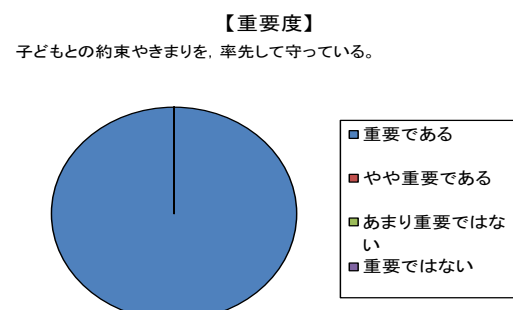
上のグラフから、ほとんどすべての子どもたちが学校に楽しく通っていることが読み取れます。今年度スタートにあたって、私たちが一番願ったのが、子どもたちが楽しく通うことができるようにしたいということです。様々な取組を進めてきた成果もあり、このような結果が得られたことは喜ばしいことだと感じます。

しかしながら、一握りではあっても、「あまりできていない」「できていない」と回答している子どもたちのことに思いをはせます。



高学年の子どもたちの、上の二つのアンケート結果に注目してみました。一見仲良く過ごしているように見える子どもたちの、心の奥にある悩みが読み取れるように思います。それぞれの子どもたちが、友だちにやさしくしたりいたわったりする様子が十分にうかがえますが、その一方で、友だちが間違っことをしている場面で「なかなか注意しにくいな」という戸惑いも感じられます。友だちとは、一緒にいて楽しいというだけでなく、互いを高め合えるような関係、学級集団を作り出すことではないかと思います。このアンケート結果を受けて、さらに子どもたちの「豊かな心」を育てていきたいと感じました。

<教職員アンケート>



私たちは、「子どもに範を示す教職員」を目指す教職員像に掲げています。大人の行動を子どもたちは常に見ています。私たちが教職員としての自覚を持って、子どもに範を示すことで子どもたちの行動もまた変わってきます。

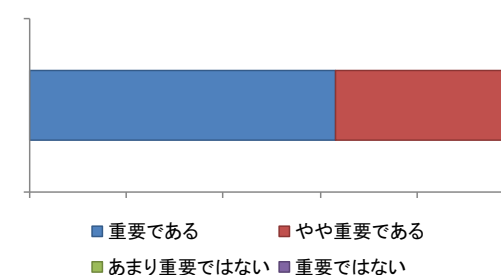
たとえば「時間を守る」ことです。教師の都合によって授業が延長になることを子どもたちは嫌います。それだけ子どもとの時間の約束を守ることが大切なのです。私たちが時間を守ることで、子どもたちも時間を守るようになります。時間のけじめをつけるために、私たちも時間を大切にしています。また、清掃活動についても、子どもたちが掃除の良さを知るために、まず、私たち自身が率先してほうきを持って掃除を楽しんでしています。不思議もので、「掃除しなさい」と声をかけるよりも、黙って子どもと一緒に掃除しているほうがはるかに効率よく指導できるのです。さらには、言葉遣いについても、私たち自身から「相手の気持ちを考えた言葉遣い」を発信していくことを心がけています。授業中には、みんなが気持ちよく受け止められる言葉で話し合いを進めたいと願っています。そのために、私たち自身から丁寧な言葉で話しかけるように心掛けています。

左に示したグラフからは、「教師が範を示すことが大切だ」という意識はあるものの、それを実現するに当たっては「なかなかできにくい場面もある」という教職員の思いがあるように思います。その要因を丁寧に分析し、子どもたちに範を示すことができる学校づくりをしていくことが、私たちの大切な責務であると考えています。

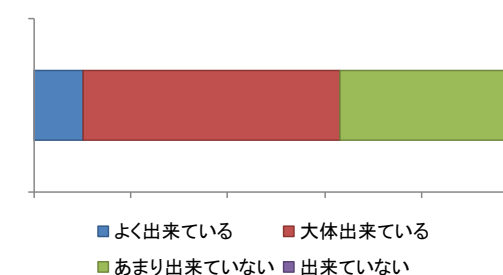
家の中ではどうでしょう。下のグラフからは、保護者の皆さんが私たちと同様に「学習する場所を整理整頓することは、大切なこととはわかっているが、なかなかできない」という様子うかがえます。重要度のほうでは、すべての方が「重要である」「やや重要である」と回答されています。しかし、実現度になると「よくできている」10.2%「大体出来ている」52.9%「あまりできていない」36.9%となっています。子どもが使う場所であるので何回も整頓しなければならなかったり、子どもに整理を呼びかけてもうまくいかなかったりしていないでしょうか。ここでもやはり、大人から率先して家の中の整理整頓を心がけたり、子どもと一緒に掃除したりすることも、時には解決への近道であるように思います。

<保護者アンケート>

【重要度】
わが子が学習する場所のまわりは、整理整頓するよう心掛けている。



【実現度】
わが子が学習する場所のまわりは、整理整頓するよう心掛けている。



健やかな体

身体をきたえ元気に活動する子

	じつげんど			
	よくできている	だいたいできている	あまりできていない	できていない

低学年

わたしは、あさごはんを たべてから、 がっこうに いっ ている。	92.5%	5.7%	1.9%	0.0%
わたしは、よる はやくね て、 あさ はやくおきてい る。	43.1%	23.5%	13.7%	19.6%

高学年

わたしは、朝ごはんを食 べてから、 学校に行ってい る。	94.1%	4.4%	0.0%	1.5%
わたしは、夜は早く寝て、 朝は早く起きている。	23.2%	43.5%	24.6%	8.7%

子どもたちが、元気でいきいきと活動できるようにするために、「早寝・早起き・朝ごはん」を呼びかけています。アンケートを通して、ご家庭での様子を調べてみました。学年を問わず、朝ごはんはほとんどすべての子が食べてきています。しかしながら、早寝・早起きになると、およそ全校の1/3の子どもたちが「あまりできていない」「できていない」と回答しています。「早寝・早起き」の基準はその子の感覚やお家の事情によって変わるものですが、やはり、睡眠時間をしっかり取るということが子どもたちの元気な活動に結びついているように思います。睡眠時間の確保は、何としても実現していききたいですね。

高雄小学校は国道に面したところにあり、登下校の安全には特に気をつけなければなりません。そこで、折に触れて子どもたちに安全指導を積み重ねてきました。そのため、下に示したように子どもたちの安全に関する意識はかなり高いです。

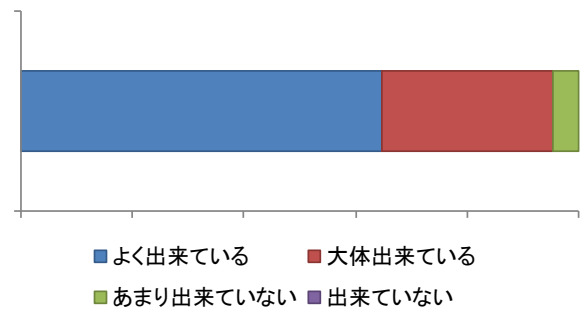
＜低学年アンケート＞

＜高学年アンケート＞

【じつげんど】
がっこうの そとで がくしゅうするとき、わたしは、 あんぜんや マナーに きをつけている。



【実現度】
わたしは、 校外活動の時は、安全やマナーに気をつけている。



今年度になり、「子どもたちが放課後に自由に過ごせる時間を作る」取組を始めました。運動場の工事も終わり、曜日を定めることなく、最大 4:30 まで残れるようにしたところ、運動場や教室で楽しく遊んだり学習したりする様子が増えてきました。また、保護者アンケートの自由記述欄には次のようなお声もいただいています。

放課後に遊べるようになって、とてもうれしいですが、曜日が決められると習い事などで残ることもできない曜日があるので、いつでも残れるようにしてほしいです。

しかし、私たちが最も気をつけているのは、下校時の安全です。集団下校はなくなったものの、家の近い人と一緒に複数で帰るように指導しているのは、子どもたちの安全を守るための指導の一つです。また、保護者の皆さんに下校ボランティアをお願いしているのも、安全な下校を確保するための手立ての一つですし、交通安全推進委員会の方々にもご尽力いただいています。

子どもたちの安全は、大人の「ほんの少しの工夫」によって守られます。たとえば、子どもたちの下校の声が聞こえてきたら家の仕事の手を止めてようすを見るようにしてはどうでしょう。「近所の子どもが帰ってきたら、おかえりと声をかけてみることもいいですね。夕食準備の手を止めて、少し外の様子を見てみようとする 것도 大切ですね。そんな「ほんの少しの工夫」の積み重ねが子どもの命を守り、子どもの安全を守ることにつながるのだと思います。

新聞紙上などでは、子どもを狙う犯罪の様子が報じられています。今年度は、京都市内でも命に係わる事故が発生してしまいました。私たち教職員は、「子どもが自由に放課後に過ごせる時間」を作り出すとともに、子どもたちの命と安全を守るために、できるだけことをしていこうと思います。そこで、保護者の皆様や地域の方々にも、どうか、「ほんの少しの工夫」の積み重ねで、子どもたちの命と安全を守る取組にご協力いただきますようよろしくお願いします。

自由記述欄より

いつもお世話になりありがとうございます。アンケートに関しては、例年より内容が応えやすくなったと思います。学校生活については、先生方も何かとご多忙の中、高雄校の良さを生かして、子どもたちのために工夫や努力をしてくださっていることが、とてもありがたいです。担任の先生も、何事も丁寧に対応してくださるので、親子ともども信頼しています。

うれしいご意見をいただきありがとうございます。アンケートについては、昨年度のアンケートをもとに、皆さんのお考えや日頃の様子がよくわかるように改善のうえ実施させていただきました。同じアンケートを使って、後期も学校評価を実施しますのでどうぞよろしくお願いします。

高雄校の良さを生かすということは、なかなか難しいことだと感じています。教職員全員で「チーム高雄」として、様々な課題に取り組んでいき、「高雄校に通わせてよかった」と胸を張って話していただける学校づくりを進めていきたいと思います。これからもどうぞご協力をお願いします。

ゲームや動画を見ていることが多く、自主学習や読書をしないので困っています。

自主学習や読書については、前述のとおりです。ここでは、ゲームや携帯電話などの問題についてお話したいと思います。

ゲームや携帯電話は、どんどん新しい機能が付け加わり、私たち大人よりもむしろ子どものほうがよく知っているような状態になっています。しかも、通信機能が発たちし、ゲームや携帯電話を使って友だち作りができるようになっています。

しかしながら、いくら便利なものでも、使い方を誤れば大変なことに巻き込まれてしまうこともあります。通信機能を悪用して、自分を偽って子どもたちと連絡を取り合い、犯罪に巻き込もうとする大人もいます。私たちが「携帯やスマホ・ゲームのことなんかよくわからない」と言っている間に、子どもたちはそんな犯罪に巻き込まれてしまうことも予想できます。

また、その通信機能がいじめや悪口の道具となることも指摘されています。自分の知らないところで、掲示板などに自分の周りの人々が自分の悪口をどんどん書き込んでいるといったようなことも報告されています。それがもとで悲しい思いをしている子どもたちもいるとも報告されています。

さらには、何気なく使った写真が悪用されることもあります。自分のプロフィール写真を発信したところ、それが合成され、とんでもない写真として使われているといった事例も紹介されています。面白半分にいたずらをしている写真をインターネットで発信したところ、そのいたずらをしている本人も周りで見ている子も、名前も住所も特定され、あっという間にインターネット上で公開されているといったことも起きています。しかも、その情報は、いくら削除したとしても、受け取った人々やプロバイダなどで保存されてしまい、大きな不利益をこうむることもあるのです。

まず、私たちは、子どもがどのようなゲームをしているのか、携帯電話をどのようにつかっているのか、よく知ることが大切ですね。

先日のたてわり遠足の折、子どもが出発してからの下校時刻の変更がありました。連絡が回ってきたのが昼過ぎでした。急に予定を変更できず、子どもを待たせることになりました。学校に戻って下校時刻の変更がないようにするなど対応できたのではないかと思います。特に1年生の親であればすごく心配だったと思います。

貴重なご意見をいただきありがとうございます。また、ご心配をおかけしたこと大変申し訳なく思います。

学校から家までの距離が長い子が多く、本校では校外学習で流れ解散を行うことが多くあります。今回のような場合があることも含めて、また検討したいと思います。

なお、遠足の時、学校からの情報は朝の間に電話連絡網とPTAメールで発信しました。また、ホームページでも一行メッセージで発信しています。今回に限らず、様々な場面で、同様に発信しなければならない事態もあります。ご指摘のように、電話連絡網は不在の家庭も多く、皆さんに伝わるまで相当の時間を要します。PTAメールにご登録いただくと、即時に情報を得ることができます。この機会にご登録いただくことをお勧めします。

子ども同士の一つの言葉で相手を傷つけるようなことはやってはいけないとの自覚がもう少しもてるようになればいいですね。いやなことを言われた、されたと思うなら、その場で話し合えるような子供になってほしい。嘘は絶対いけないこと、うそをつかれた本人、それを聞いた親は嫌な思いをしてしまうのでは・・・なかなか言葉は難しいものです。学習面も本当に理解しているのか、なかなか理解できないのならわかるまで教えてやってもらいたいです。(放課後学習など)

おっしゃる通りだと思います。私たちも機会をとらえて計画的に人権指導を行っていますが、それでもなお、子どもたちの気になる言動を見聞きすることがあります。どの子も、とても優しく素直なのですが、何か面白くない気分の時に、相手を傷つけるような言葉を平気で言ったりするような場面も見かけます。それら一つ一つを丁寧に取扱い、適切に指導していくことはとても大切なことであると思います。

それだけにとどまらず、私たちは子どもたちの温かい心があふれている行動を見つけだしていこうとしています。そして、その温かな心や行動を全校みんなで共有できるようにしていきたいと考えています。たとえば、体の不自由なお年寄りに出会いそのお年寄りのために自分にできることをした子がいたとしたなら、その良さを全校みんなが知り合い、自分もそんなことができる人になりたいと願うように指導していきたいと思うのです。

私たちが気が付かないうちに、お子たちが心を痛めている場面もあるかもしれません。そんなときはぜひとも担任までご相談ください。なんとしても解決できるように働きかけたいと思います。

放課後の学習は、放課後に時間が取れるようになった今だからこそ、始めていきたいと思います。ぜひともご協力ください。